

平成23年度 第2回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成23年10月25日 午後2時～4時

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 〈委員〉

加藤 勇夫 [愛知学院大学名誉教授]
河木 照雄 [豊田商工会議所副会頭]
服部 正雄 [トヨタ生活協同組合特別顧問]
杉戸 厚吉 [社団法人地域問題研究所計画部長]
浅井 良隆 [コンサルティングオフィス アット・ドリーム]
澤田 恵美子 [豊田市消費者グループ連絡会会長]
松井 栄子 [三州足助公社]
伊藤 留美 [公募]

〈事務局〉

鈴木 辰吉 [豊田市産業部長]
須藤 寿也 [豊田市産業部調整監]
早川 正文 [豊田市産業部商業観光課長]
長江 洋一 [豊田市商業観光課副主幹]
松澤 秀記 [豊田市産業部商業観光課係長]
近藤 美由紀 [豊田市産業部商業観光課主査]
鈴木 啓介 [豊田市産業部商業観光課主査]
小船 将克 [豊田市産業部商業観光課主査]
小野田 純奈 [豊田市産業部商業観光課主事]

〈傍聴者〉

なし

【次 第】

- 1 開 会
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 審議事項
 - (1) 商店街活性化計画について (資料1)
 - ・大林ヒルズ商店街振興組合
 - (2) 経営革新支援事業採択申請について (資料2)
 - ・株式会社フードセンターいたくら
- 5 報告事項 今年度採択済み事業の進捗状況について
- 6 その他
- 7 閉 会

【会議録（要約表記）】

1 開会

事務局より、平成23年度第2回豊田市商業振興委員会の開会の宣言が行われた。

2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて

事務局より説明された。

3 委員長あいさつ

加藤委員長よりあいさつが行われた。

4 審議事項

(1) 商店街活性化計画について

(資料1)

・大林ヒルズ商店街振興組合

大林ヒルズ商店街振興組合より資料に基づき説明を行い、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

飲食店を中心としたイベントが実施されているが、今後どう継続・発展させていくのか。

新規事業のふれあいまつりへたくさん来てもらうしかけ、個店を知ってもらうしかけ、人集めに自治区がどこまで協力してくれるのか。出店の中身はどのようなイメージか。

大林

飲食店の連携は継続していく。計画にはあえて含めていない。ふれあいまつりの出店では、販売もありPRもある。まずはこの自動車屋が電気自動車を扱っていることを認知してもらうなど。地元客が大前提なので、このイベントを通じて店へ足を運んでももらうねらい。

委員

客にとってのメリットはクーポン券か。

大林

クーポンは後に店を訪ねてもらうためのツール。あくまでまつりの中身を楽しんでもらう。

委員

業種別研修支援事業について、いろんな業種があるが希望を聞いて単発で実施するのか継続か。

大林

単発で考えている。会議所の研修も活用してもらう。

個店別という意味ではなく、飲食店で共通するテーマがまとまれば取り上げるなど。

委員

商店街の研修は二通りある。商店街のマネジメントを担ってくれる人を育てるための研修と、個店の魅力をアップするような研修。商店街の活性化には、組織の後継者づくりが必要。

委員

商店街の地域活性化法による認定は、認定商店街を目指すのか、それとも中小企業活力向上補助金を狙うことを視野に入れているのか。

大林

使える制度は使っていきたい。

商店街全体を作り上げていく中で、市だけでなく経済産業省を含みいろんな関係省庁に話を持っていく。

委員

視野に入れるとなると、計画書を書いた人しか内容を知らないと思うので、関係者に説明することが必要。募集時期の問題もあるので、上層部ではいろいろ考えておいた方がいい。

大林

理事会で、こういうテーマで話が進んでいる状態だが、具体的な計画は出ていない。活性化計画の事業を固めながら、活力向上にもって行きたい意気込みでいる。

委員

業種別研修の件で、成果指標は年2回となっている。業種に特化したら年3回で1回あたり人数を少なくする方がいい場合もあるが、どうのようか。

大林

承認されてから具体的にしていく。あくまで目標。

委員

講話を聞いてよかった、で終わらせず、その後どのように活かしているとの報告を得るか。

大林

そのまま実践できるかは別として、変化を付ける部分は取り組みをする。

事後アンケートを取ってフォローアップする。

委員

人口の減少以上に、世帯の構成や高齢化といった変化について5年後位までをどのように見ているか、それを踏まえた地域の活性化策をどのように考えているか。

大林

単身世帯・高齢者が増えている。高齢者は手近なところ、より簡単に行ける場所を買う。待っているだけではなく、こちらから出て行く姿勢が必要と思っている。

委員

最近の購買行動やサービス行動がものすごく変化している中で、迅速に対応していかないとならない。研修も成果が現れるように実施すること、成果があって展開していかなければ商店街の活性化にはならない。

有効なもの、将来的なものとしてもらわねば、経営者の意識を高めるだけのものでは助成するに値しない。即効的なものと長期的なものをうまく組み合わせること。計画は少し抽象論になっている。リーダーを支えるスタッフがいて、うまくかみ合うことが重要。そのスタッフが段々後継者となっていくように。

(2) 経営革新支援事業

(資料2)

・株式会社フードセンターいたくら

株式会社フードセンターいたくらより資料に基づき説明を行い、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

男子寮が多いので、惣菜に含まれる栄養素を紹介し、摂取を促すのもよい。

いたくら

プライスカードのところにメッセージをつけている。スーパーとは違うと言ってもらえる。反面、味のチェックも厳しく、毎日の味の違いも指摘される。

委員

コンビニエンスストアの弁当を買う人がとても多いが、保存料が入っていることが気になる。手作りでやるのは良い。

委員

どこのどういう農家何軒から仕入れるのか。消費者は産地がとても気になるもの。

いたくら

夢農人（ゆめのうと）から23軒、下山のとんびの里が3名。野菜の種類は指定せず、できたものを納めてもらう。素材を何の惣菜に変えるか、日々試行錯誤しながら作っている。

委員

野菜は通年で必ず確保できるものではないが、消費者にはあまりその事情がわからないため、地産地消と謳いながら北海道産などを置いてしまえば消費者は離れてしまう。いろんな工夫をされると良い。

委員

資金計画は現実的な数字かもしれないが、始めからこの計画でいいのか。

いたくら

県にも指摘されたが、正直なところである。

委員

商売は慈善事業ではないし、公金が投入されるので、利益を増やしていかなければならない。委員に買いに行きたいと思わせるくらいのもが必要。

————— 審議 30分 —————

5 報告事項 今年度採択済み事業の進捗状況について

以下の事業について事務局より報告された。

- ・ ソーシャルビジネス支援事業（トヨタ生活協同組合、株式会社フードセンターいたくら）
- ・ がんばる個店のネットワークによる魅力創出支援事業（大林エリア商業活動事業共同組合）
- ・ 商業活性化推進交付金による屋上緑化事業（豊田まちづくり株式会社）
- ・ 商店街活性化計画事業である飲み歩きイベント（協同組合豊田市商店街連盟小坂発展会）

6 その他

7 閉会